

株主の皆様へ

2013年10月1日から2014年3月31日まで



ご挨拶
01



事業部門別概況
03



特集
05



業績ハイライト
07



会社概況
09



株式概況／株主メモ
10

Shift for Growing Global 2015

特集

世界に羽ばたけ! フェニックス

(前編) 誕生に込められた思い

証券コード 4997



日本農薬株式会社

生命と緑の未来のために Innovation for Life & Nature



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第115期第2四半期のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

神山 洋一

自社開発品目の普及拡販や 海外事業の推進などにより、増収増益

世界人口は今後急激に増加し、2050年には90億人を突破すると予測されています。こうした人口増加や需要構造の変化により、世界の農産物需要は引き続き増大していくものとみられます。それに伴い、新興国を中心に世界的な農薬需要も拡大基調にあります。

このような状況下、当社グループは自社開発品目の普及拡販や海外事業の推進に取り組みました。国内では新製品6剤の販売開始により品目ポートフォリオの拡充を図るとともに、既存自社開発品目の普及拡販に努めました。一方、海外では欧米を中心に販売が好調に推移し、また、園芸用殺虫剤「フェニックス」原体の販売増加や為替の円安基調も売上高伸長に寄与しました。

これらの結果、当第2四半期の売上高は、350億61百万円（前年同期比70億33百万円増、同25.1%増）となりました。また、利益面では増収効果に加えノウハウ技術料の増加もあり、経常利益は83億49百万円（前年同期比24億65百万円増、同41.9%増）、四半期純利益は56億35百万円（前年同期比17億22百万円増、同44.0%増）となりました。

「事業拡大の取り組み」や 「創薬力強化と開発早期化」などを推進

当社グループは中期経営計画「Shift for Growing Global 2015 成長へのシフト」において、M&Aや提携、品目買収などの「事業拡大の取り組み」を推進しております。その第1弾として、2013年10月にISEM社（イタリア）より除草剤「オルトスルフアムロン」を譲り受け、本剤の普及拡販に向けた準備を鋭意進めております。また、シロアリ事業の拡大を目指し、2014年1月にアリスタライフサイエンスアグリマート株式会社（現：株式会社アグリマート）の発行済普通株式の100%を譲り受け、



グループ会社化しました。当社グループは創業以来培ってきた農業技術の応用展開分野として、住宅関連薬剤(シロアリ薬剤)の開発・普及を30年以上にわたり展開してまいりました。今後、当社の研究開発力とアグリマート社の多様な販路・知見・品目など双方の経営資源を有機的に融合し、価値ある製品やサービスの開発・提供を目指します。

「事業拡大の取り組み」に加え、「創薬力強化と開発早期化」も中期経営計画における重点課題の一つです。世界で戦える研究開発型企業として成長していくため、新規剤の開発や既存剤の登録国・適用範囲の拡大についても着実に推進しています。

まず、新規剤の開発としては、新規化学構造を有する殺ダニ剤「ダニコングフロアブル」および既存の自社殺ダニ剤「ダニロン」との混合剤「ダブルフェースフロアブル」を2015年に、水稻、園芸、芝などの広範囲な分野に有効な新規汎用性殺菌剤「NNF-0721(開発コード番号)」を2018年に発売することを目指し、鋭意開発を進めています。また、既存剤の海外開発にも積極的に取り組んでおり、「ハチハチ」の有効成分である「トルフェンピラド」を、米国で2013年12月に食用登録を取得し、当期より販売を開始しました。また、インドや世界第1位の農業市場であるブラジルでも登録認可を目指し、鋭意開発を推進中です。

通期計画達成に努めるとともに、積極策を着実に実行

通期の業績見通しは、売上高は560億円(前年同期比83億72百万円増、同17.6%増)、経常利益は88億円(前年同期比16億56百万円増、同23.2%増)、当期純利益は58億円(前年同期比10億84百万円増、同23.0%増)を計画しております。引き続き自社開発品目の国内外での普及拡販などに努め、計画達成に向けて邁進いたします。

当社グループは、現在推進しております中期経営計画における成長戦略を着実に実現し、事業規模の拡大を図ってまいりま

す。さらに、グループビジョン「Nichino Group - Growing Global 世界で戦える優良企業へ」で掲げているとおり、2018年度の売上高1,000億円を一つの通過点として、将来、世界でトップ10の事業規模(売上高2,000億円以上)の研究開発型企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

アグリマート社をグループ会社化

当社は、農業事業の応用・発展分野であるシロアリ薬剤販売事業で長年協力関係を築いてきた株式会社アグリマートをグループ会社化しました。互いの経営資源を有機的に融合することで、

- ① シロアリ事業のさらなる強化
- ② 2016年に認定取得・発売を予定している当社初の自社開発シロアリ剤「ピリプロール」の普及拡販における協働体制強化

を図ってまいります。

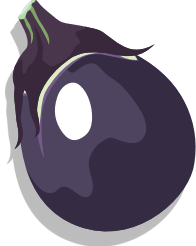


アグリマート社員一同



当社とアグリマート社合同で、お客様向けにセミナーを開催

社名	株式会社アグリマート
所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋3-12-2(京橋第2有楽ビル6階)
資本金	50百万円
主要事業内容	シロアリ防除資材、防疫用殺虫剤等の販売 など



事業部門別概況

事業部門別売上高構成比

[国内農薬販売]
41.5%

[海外農薬販売]
37.9%

売上高
35,061百万円

- アジア 24.4%
- 米州 26.8%
- 欧州 45.9%
- その他地域 2.9%

[その他]
2.8%

造園緑化工事、
不動産の賃貸、
農薬残留分析 他

992百万円
(前年同期比8.1%減)

国内農薬販売

14,556百万円
(前年同期比10.7%増)

海外農薬販売

13,275百万円
(前年同期比40.8%増)

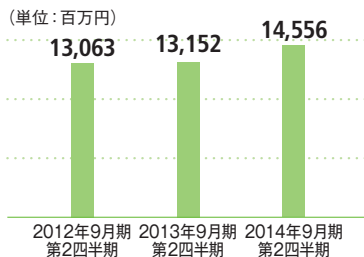
化学品他

6,237百万円
(前年同期比42.8%増)

- 化学品・医薬他
1,891百万円(前年同期比14.2%増)
- ノウハウ技術料
4,346百万円(前年同期比60.3%増)



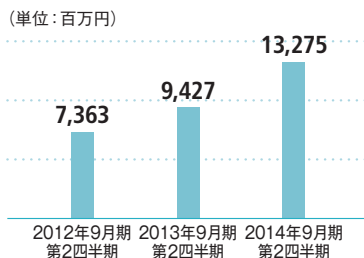
新製品6剤の発売や自社開発品目の普及拡販などにより売上高伸長



国内農業販売では、新製品6剤の販売を開始し品目ポートフォリオの拡充を図るとともに、園芸用殺虫剤「フェニックス」、水稻用殺菌剤「ブイゲット」を始めとする自社開発品目の普及拡販に努めました。「ブイゲット」は新たな殺虫剤との混合剤を投入し売上高が伸長しました。農業原体販売では園芸用殺虫剤「コテツ」、「ハチハチ」などの主力品目の当用期に向けた販社への出荷が好調に推移しました。また、消費税率引き上げに伴う前倒し受注もあり国内販売全体の売上高は前年同期を上回りました。



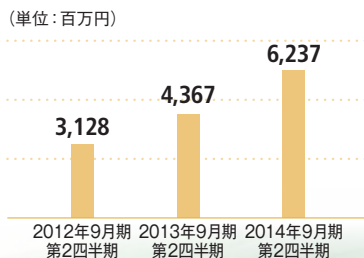
欧米での販売が好調に推移



海外農業販売では、アジア地域の主要市場である韓国、中国およびインドでの病害虫の小発生や天候不順による過年度の流通在庫などから売上高が伸び悩みました。一方、米州ならびに欧州では販売が好調に推移しました。品目別では米国で殺ダニ剤「ダニトロン」が昨年のダニの多発生から荷動きが早まり売上高が伸長しました。さらに、「フェニックス」原体の販売増加や為替が円安基調で推移したことなどから海外販売全体の売上高は前年同期を上回りました。



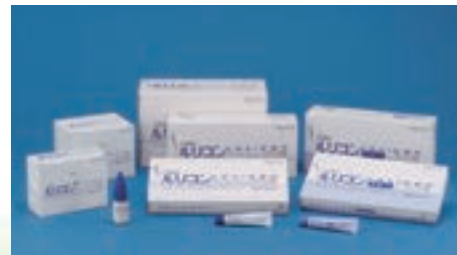
シロアリ薬剤や外用抗真菌剤の売上高伸長に加え、ノウハウ技術料が増加



化学品事業では、シロアリ薬剤の出荷が順調に推移しました。

また、医薬品事業では、今期より外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の米国ならびに中国での販売を開始し売上高が伸長しました。

さらに、技術導出先の販売が好調に推移したことから、ノウハウ技術料が増加しました。





特集

世界に羽ばたけ！ フェニックス



（前編）誕生に込められた思い

チョウヤガなどのチョウ目害虫の幼虫による食害から農作物を守る殺虫剤「フェニックス」。日本農薬グループのけん引役としてめざましい働きを見せています。その誕生から世界展開にいたる歩みを2回にわたって紹介します。



廣岡 卓

フェニックスの開発時から関わり、2002年に開発部長となり、その後プロジェクト統括マネージャーとしてフェニックスを担当。2010年から資材・物流部長として原材料の購入を担当。現在は、農業工業業会に向向中。

続く快進撃

——伸び盛りのフェニックスですが、どのような特長をもった殺虫剤ですか。

廣岡 チョウ目類であるチョウヤガの幼虫に特異な殺虫作用をもっています。チョウ目害虫はキャベツ、白菜、レタスなど

の葉菜類、お茶、果樹などの葉や果実をバリバリかじります。食欲旺盛なだけ食害も大きい害虫です。

西松 世界で販売される殺虫剤を見ると、金額ベースの3割、防除面積ベースの4割がチョウ目向け殺虫剤で占められています。フェニックスは狙った害虫を筋収縮という形で摂食不能にし、餓死にいたらせます。一方で、人畜には安全性が高く、天敵などの有益な昆虫にはきわめて影響の少ない薬剤です。

廣岡 狙ったチョウ目害虫にピンポイントで届き、効能が長時間持続することに加え、既存の殺虫剤に抵抗性のある害虫にも効果というメリットがあります。

面白いものが見つかった

——誕生のきっかけは……。

遠西 入社から10年目だったと思います。当時、研究所で除草剤の探索研究を担当していたのですが、新しい骨格をもつ、

ある誘導体に注目し、検討を始めていました。作物への薬害が強くて日の目を見ることなく中止となりましたが、その課題を克服しようと別の誘導体を合成して生物試験をお願いしたところ、チョウ目害虫に面白い作用を示すことが分かりました。

西松 遠西とは同期です。私は生物試験を担当していました。新しい化合物が生まれると、その効能をテストする役割です。

廣岡 探索研究では合成と生物評価は一体です。この化合物は効く、これはダメというキャッチボールをしながら、研究を進めていくわけです。

西松 新しい化合物が世に出るのは簡単なことではありません。チョウ目類に特異な作用をもつ新規性に注目と期待が集まりました。

ものになるのは 万に1つ

——初めは研究テーマに入っていなかったそうですね。

遠西 除草剤が専門でしたから…個人的な興味で残したサブテーマにすぎません。そんな形の探索が3年ほど続きました。

廣岡 一定以上の活性が認め



西松 哲義

フェニックスの選抜の過程で評価を担当。その後、本社に異動して国内の販売の立ち上げを行った。現在は研究開発本部総合研究所開発マネージャー兼生物ユニットチーフ兼長沼ナオセリー所長として、フェニックスの生物評価の支援にも関わる。



られなければ研究テーマにはなりません。上司の説得も大切です。

遠西 試行錯誤を繰り返しましたが、思ったほど活性が上がりません。そこで上司の理解を得て、コストを度外視してでも活性を追求しようということになりました。

廣岡 なかなかできることではありません。彼はクレージーだったわけです。

西松 今だから言えるのですが、もうダメかと思う時期もありました。遠西らはそのたびに化合物のデザインを変え、新しい化合物を作りました。

遠西 これまで使ったことのない合成原料も視野に入れました。その結果、次第に活性も上がっていきました。

廣岡 当時、私も研究所にいました。この化合物を何とかものにするということで内々にプロジェクトリーダーを仰せつかりました。

開発決定から販売へ

——2000年には開発決定が行われますね。

廣岡 1998年にはフルベンジアミド（フェニックスの農薬一般名）という有効成分の探索に目途が立ち、会社がゴーサインを出したのは2000年です。当時、経営的にはかなり厳しい時期でした。販売を前提に登録手続きから製造設備の準備まで新たな投資が必要となります。経営陣も大きな決断だったと思います。

——工業的な合成も課題だったと聞いています。

西松 新しい可能性をもった化合物が見つかったわけですが、利益を生みだせる安く作る製造法の確立が大前提となります。

廣岡 当初合成された化合物は非常に高価なものでした。もっと安く作れることが遠西を含めた総合研究所の化学陣の課題となりました。

遠西 フルベンジアミドの構造は、3つの部位からなります。うち1つは農業にはあまり使わないヨウ素原子からできていました。安価に作る方法はないかというわけです。もう1つは当時古典的な方法により長い工程を経なければ合成できなかったヘプタフルオロイソプロピルアニリンをどのような方法で実現するか……どちらも難問でした。

西松 複雑なステップを経ないとできないのがこの新規化合物の弱点でした。ところが新規のプロセス化学の手法を使って、研究陣はその課題を見事にクリアしたのです。2011年の日本化学会化学技術賞を受賞し、学会でも評価されました。

遠西 幾度かの検討を経て、新しい合成法にいたりしました。ヨウ素原子の導入法に触媒としてパラジウムを用いたことで成功にこぎつけました。後で知ったのですが、ヨウ素は千葉県の地下から採れるかん水という太古の水から得られ、パラジウムは隕石により宇宙からもたらされたのでは・・・とのことでした。

廣岡 プロセス化学の飛躍的な進展により1ステップで、しかも高収率で重要中間体が得られるようになりました。これが安価な製造法につながったのです。（次号につづく）



遠西 正範

1993年の創出から選抜にいたる化学合成を担当。2012年からはプロセス化学に移って新しい剤の工業化を担当する。現在は、研究開発本部総合研究所プロセス化学ユニット主席研究員。

業績ハイライト

売上高 **35,061**百万円

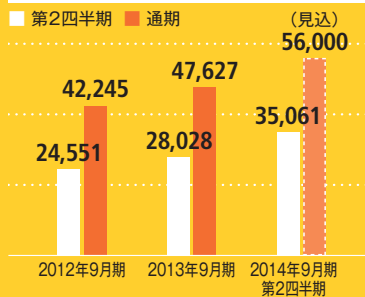
経常利益 **8,349**百万円

四半期純利益 **5,635**百万円

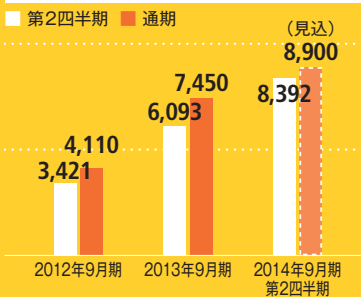
➔ 国内外での自社開発品目の普及拡販などにより売上高増加

➔ 増収効果に加え、ノウハウ技術料収入の増加もあり、経常利益増加

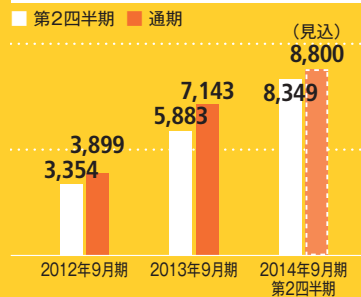
売上高 (単位:百万円)



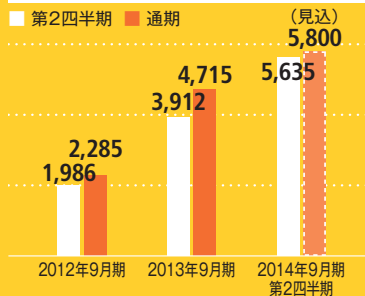
営業利益 (単位:百万円)



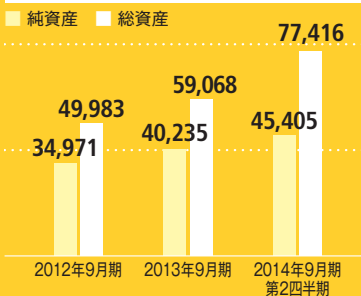
経常利益 (単位:百万円)



四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



純資産/総資産 (単位:百万円)



1株当たり配当金 (単位:円)

	中間	期末	合計
2012年9月期	4.5	4.5	9.0
2013年9月期	4.5	8.5	13.0
2014年9月期	6.5	6.5 (見込)	13.0 (見込)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2014年3月31日	前期末 2013年9月30日
資産の部		
流動資産	54,448	39,277
固定資産	22,967	19,790
有形固定資産	13,120	13,161
無形固定資産	3,640	921
投資その他の資産	6,205	5,707
資産合計	77,416	59,068

科目	当第2四半期末 2014年3月31日	前期末 2013年9月30日
負債の部		
流動負債	26,416	12,791
固定負債	5,594	6,040
負債合計	32,011	18,832
純資産の部		
株主資本	43,894	38,884
その他の包括利益累計額	1,287	1,130
少数株主持分	223	220
純資産合計	45,405	40,235
負債純資産合計	77,416	59,068

連結損益計算書(要旨)

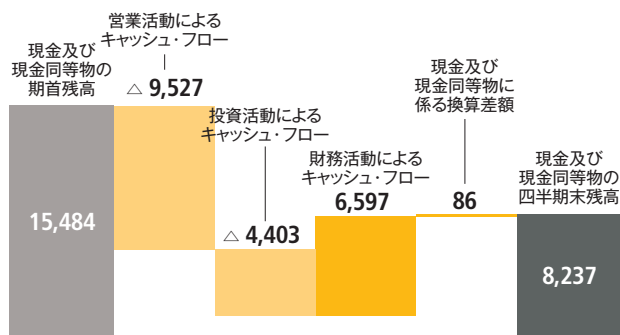
(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2013年10月1日~2014年3月31日	前第2四半期(累計) 2012年10月1日~2013年3月31日
売上高	35,061	28,028
営業利益	8,392	6,093
経常利益	8,349	5,883
税金等調整前四半期純利益	8,335	5,862
四半期純利益	5,635	3,912

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

当第2四半期(累計) 2013年10月1日~2014年3月31日



キャッシュ・フローについて

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期で使用した資金は、95億27百万円となりました。これは、売上債権およびたな卸資産の増加、法人税等の支払いなどによる資金の減少が、税金等調整前四半期純利益などによる資金の増加を上回ったためです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期で使用した資金は、44億3百万円となりました。この主な要因は、無形固定資産の取得による支出などです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期で得られた資金は、65億97百万円となりました。この主な要因は、短期借入れによる収入などです。



会社概況 (2014年3月31日現在)

会社の概要

商号	日本農業株式会社 (NIHON NOHYAKU CO.,LTD.)
本社所在地	〒104-8386 東京都中央区京橋一丁目19番8号
設立	1926年(大正15年)3月9日
資本金	10,939,725,250円
従業員数	700名(連結)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
主な事業内容	農薬、医薬品、動物用医薬品、医薬部外品、 工業薬品、木材用薬品、農業資材などの製造業、 輸出入業、販売業
主要な事業所	本社 札幌支店、仙台支店、東京支店、 大阪支店、福岡支店、東海北陸営業所、 総合研究所、 バンコック事務所

連結子会社

株式会社ニチノー緑化
株式会社ニチノーレック
株式会社ニチノーサービス
Nichino America, Inc.(ニチノーアメリカインコーポレーテッド)
日本エコテック株式会社
日佳農葯股份有限公司
株式会社アグリマート

非連結子会社

Nichino Europe Co., Ltd.(ニチノーヨーロッパカンパニーリミテッド)
日農(上海)商貿有限公司

持分法適用関連会社

Agricultural Chemicals (Malaysia) Sdn. Bhd.

取締役、監査役および相談役

取締役会長	森 尾 和 彦
代表取締役社長	神 山 洋 一
取締役 兼 常務執行役員	廣 瀬 薫
取締役 兼 常務執行役員	今 埜 隆 道
取締役 兼 常務執行役員	友 井 洋 介
取締役 兼 常務執行役員	細 田 秀 治
取締役 兼 常務執行役員	古 瀬 純 隆
取締役 兼 執行役員	佐 久 間 伸
取締役 兼 執行役員	中 島 博 之
取締役(社外)	郡 昭 夫
監査役(常勤)	浜 出 信 正
監査役(社外)	富 安 治 彦
監査役(社外)	戸井川 岩 夫
相談役	大 内 脩 吉

執行役員(取締役兼務者を除く)

郷 和 久
金 井 和 夫
福 富 学 夫
津 幡 健 治
矢 野 博 久
Jeffrey R. Johnson
(ニチノーアメリカインコーポレーテッド
取締役社長)
飯 島 豊 和
富 田 啓 文
瀬 尾 明
東 野 純 明

株式概況 / 株主メモ (2014年3月31日現在)



株式の概要

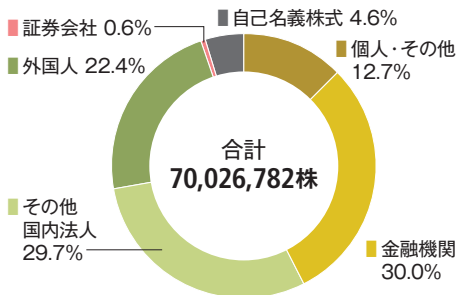
発行可能株式総数 199,529,000 株
 発行済株式の総数 70,026,782 株
 株主数 5,873 名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ADEKA	16,176	24.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,291	6.42
株式会社みずほ銀行	2,802	4.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,493	3.73
農林中央金庫	1,960	2.93
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	1,575	2.36
朝日生命保険相互会社	1,383	2.07
株式会社りそな銀行	1,009	1.51
THE CHASE MANHATTAN BANK 385036	845	1.26
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	829	1.24

(注)持株比率は、自己株式(3,185千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
 定時株主総会 毎年12月中
 基準日 定時株主総会・期末配当 毎年9月30日
 中間配当 毎年3月31日
 公告の方法 電子公告
 (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行される日本経済新聞に掲載して行ないます。)
 単元株式数 100株^{*}
^{*}当社は、2014年4月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 [電話照会先] 0120-782-031(フリーダイヤル)
 (取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。)
 証券コード 4997

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

数字で見る 日本農薬

第7回

8.6%



▶▶▶ これは、当社グループの連結売上高に対する研究開発費
(41億4百万円：2013年9月期)の割合です。

農薬の研究開発には多大な時間と費用を要します。一般に新規化合物が製品化される確率は、十数万分の1、新農薬の誕生までには10年、100億円以上の投資が必要であるといわれています。

このような状況下、高い創薬確率の達成、維持、向上とグローバルなニーズに応える新農薬の創出のため、当社は積極的な経営資源の投入を行なっています。

当社は長年にわたり、連結売上高の約1割に相当する金額を継続的に研究開発費に投じてきました。2013年9月期の当社グループの研究開発費は、41億4百万円(前期比6.2%増)に拡大しました。

将来「世界でトップ10の事業規模(売上高2,000億円以上)の研究開発型企業」になるというグループビジョンの実現に向けて、引き続き研究開発力の強化に努めてまいります。

農薬に関するお問い合わせ先

- 日本農薬株式会社カスタマーサービスチーム
「農薬の相談窓口」 **03-6361-1414**
- 社団法人緑の安全推進協会
「農薬でんわ相談」 **03-5209-2512**
- 農業工業会
03-5649-7191

当社ウェブサイトでは、ステークホルダーの皆様へ
当社についてご理解いただけるよう、積極的に情報開示を行なっております。

<http://www.nichino.co.jp/>

日本農薬

検索



日本農薬株式会社

本社 〒104-8386 東京都中央区京橋一丁目19番8号
TEL 03-6361-1400 (代)
FAX 03-6361-1450

<http://www.nichino.co.jp/>